



〒892-0841
鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円

道標



奉仕者の心構えを学習

オルガン奏者、聖歌奉仕者研修会

昨年十一月二十九日(土) 鴨池教会で、教区初の「オ

ルガン奏者、聖歌奉仕者のための典礼研修会」が開催された。対象者は

オルガン奏者や聖歌隊関係者に限定されたが、本土地区からだけでなく奄美大島からも参加者があるなど、初めての試みに二十四人が受講した。今回の研修会では、関西を中心とした活動する団員二十六人の「典礼聖歌アンサンブル(TSE)」。



熱心に学習する聖歌隊関係者たち

研修会では奉仕者の心構えとして

「典礼においてはオルガニストや聖歌隊が主役となるのではなく、各人が一人の奉仕者としての気持ちを持ってはならないこと」が強調され、ミサの流れに沿って、聖歌奉仕者、オルガン

「奉仕者の演奏や歌い出しのタイミング、音の大きさなどの指導がなされた。研修の最後には、小川神父の司式のミサの中で、その実りが体験された。研修後には、指導したオルガニストを囲んで分かち合いの時間が取られ、教会音楽を愛する者たちならではの交流がなされた。また翌日はザビエル教会でTSEによるコンサートがあった。

話〇九〇(二〇八五)一〇九四まで。

志布志幼稚園は、長年、園

教区高齢者施設研修会を開催

聖園老人ホーム施設長 川 涯 利 雄

式典への参列と寄付のお願い

献堂五十年を迎える志布志教会

志布志教会(主任司祭ベルナルディーノ神父)は、一九六五年四月に隣接する志布志幼稚園開設とともに献堂され、今年五十周年を迎えようとしている。同教会の信徒は、これまで多くの人たちに支えられてきたことに感謝するとともに、新たな五十年に向かってスタートするよい機会にしよう

と張り切っている。記念式典は五月二十四日(日・聖霊降臨の主日)を予定しており、郡山司教司式のミサがささげられる。「多くの信徒に足を運んでもらいたい」と訴えている。

寄付のお願い

式典を準備している同教会では、建設から五十年を経過した聖堂について「骨



格はしっかりしており、その内装、外装、照明関係に手をいれる必要がある。この記念すべき年に次世代のために思い切ってリニューアルしよう」と決意。しかし小さな教会では、そのための資金調達がままならず、協力をお願いしたいとしている。

協力して下さる方は、志布志教会ⅡⅧ〇九九四(七二)〇七二〇、或いはベルナルディーノ神父携帯電話

十二月四日(木)から五日(金)にかけて教区本部に鹿兒島教区の高齢者施設の関係者が集まって「今後、カトリックの高齢者施設として何をなすべきか」をテーマに忌憚のない話し合いをいたしました。出席したのは奄美最南端瀬戸内町の「奄美の園」、名瀬の「めぐみの園」、そして阿久根の「聖園老人ホーム」からの職員計十六人でした。研修会では初日冒頭の講話や夜の交流会での座談、二日目早朝のミサでの説教などで、郡山司教が施設にとつて何が大切かを示して



くれました。そして二日間にあたる初のカトリック高齢者施設の研修会を敬虔な祈り、深い感動となつかし

十二月二十一日(日)加世田教会では堅信式がありました。この日、郡山司教から秘跡を授かったのは岡崎淳子さんと中野淑子さんの二人。二人は司教ミサの厳粛さや家族全員が受堅を見守ってくれたことへの感謝で胸がいっぱいのように感じた。この日の聖堂はふだんよりも多くの信徒が集まっています。司教様は説教の中で、「洗礼を受けるまでの人生

「福音と社会」分ち合い
—福島の実—
福島原発第1号炉映像公開
2月21日(土) 14時~16時
場所: ザビエル教会
連絡先: 山下和美(紫原)
TEL080(1704)8315

万が一に備えて!
谷山教会がAED設置
谷山教会も高齢化が進み、そのため心臓の働きが低下したり、薬を服用したり、手術を受けたという人が増えてきた。そのため司牧評議会が「自動体外式除細動器(AED)」導入を検討された。

表が耳鼻咽喉科「田上クリニック」の伊東祐久院長にAEDについて質問したところ、「寄付しましょう」との厚意を得て設置に至った。そこで教会では早速(十一月九日)にその使用方法と心肺蘇生の講習会を行った。学んだことは、倒れた人がいたら次のような処置をとることだった。①反応の確認(肩を叩き声かけし、意識があるかを確認)②応援を頼む(救急車の要

請、AEDの準備)③呼吸を見る④胸骨圧迫と人工呼吸⑤AED使用
突然の心停止を起こした人の命を救うためには、これらのことを迅速に行うことが重要であり、それによって傷病者の救命率を高めることができる。恐れず、慌てず対処できるようにするために定期的な講習会開催の必要性を感じた。(谷山教会レポート)



は秘められた神様の計画。つまり神様の思いの中にあつたのです。でも堅信は神様の道筋をマリア様の『なれかし』に倣って毎日の生活で見つけていこうとする大人の信者になるための秘跡です」と堅信の意義を説かれました。ミサ後は記念品の贈呈、写真撮影があり、その後は信者たち持ち寄りの料理で食事会を楽しみました。(報告・川口茂)

二人が受堅

加世田教会

なぜ、今、班制度なのか③

教区評議会における質疑応答から(概略)

▼大松正弘神父(母間・和泊)
 小教区評議会がどちらかと言うと行事委員会になっ

ている感は否めない。長い間、班制度を色々な所でやってきたが、それを具体化する時に、どうしても行事を処理するためのものになっ

ていて、宣教に向かう話し合いは少なかったと反省している。これから先、地域の中に信仰をどう伝えて

いこうかと、神父様の「出前宣教」は新鮮に響いた。基本的には、どこかに出

掛けて行かなければ出会うきっかけもないし、それを担うのが教会に集まる一人

ひとりであるということに同感。具体的な取り組みをそこに重点を置きながら、「

宣教する小教区」という発想でこれからも活動していきたい。

▼永山幸弘神父
 信者一人ひとりの宣教意識の育成とは、班で求道者

を探す、また「自分の周りに勉強したいと言っている人がいる」というような情報

を寄せることが一つだろう。全体的にも「宣教、宣教」と言うのだが聞き慣れ

てしまっただけで行動に結びつかない。私自身も市民

講座をやったが失敗したというか、それなりだった。でも何もしなければ七、八

人の洗礼はなかったのだが、私も力を込めてこれまでやったが、やはり教会に

誘いきれなかった。婦人会にも「教会の存在を社会に

広めて下さい」と言ったが難しかったようだ。でも奄

美だったら人材がいると思うし、やはり社会に対して

のやることの良いのだからと思う。

各小教区における

班制度の理解と問題点(1)

▼久保政博さん(溝辺)

十年ほど前まで三十年間川内教会にいた。その頃班

会が始まった。その時に言われた言葉をまた今日の講

話で聞いて感動した。それは「班は小教区の細胞であ

る」だ。当時の川内教会の班会は

楽しかった。そして宣教とか布教とか、そういう言葉

を私たちの班ではなるべく使わないようにしていた。

班会で、私が皆さんにお願

いしたのは、「班会は決してお茶飲み会になつては

いけない」ということ、あまり宗教的なことを強く出

すと一回目は来るが二回目に来なくなる人がいるか

ら、楽しい雰囲気を作ろうということだった。それ

より班員、特に子供達が次の班会を楽しみにしてい

▼小川靖忠神父

教会は信者・司祭・司教を含めての一つの現場、共同体。今日は信徒の代表の

各小教区における

班制度の理解と問題点(2)

▼丸野六雄神父(垂水)

永山神父さんが色々歴史の話をして下さって整理できた。私が現実に行っている方法が班の趣旨にかなっているか、そうでないかを判断を頂きたい。

私の方法は一つの旗を上げる。そうすると小教区の外からも人が集ま

ってくる。具体的には根占・霧島・鹿兒島市内・加治木

から人が来られ、グループができていく。小教区を超えて

班を作っていくことについて教区としてどのよう

にお考えになられるか。東京の経験から言うと、誰か

が旗印を上げなければ人は

方も来られていないので、信徒の皆さん方から見る教会

の姿をどう感じているか、またどう鹿兒島教区として

、或いは自分たちの小教区として、こういったことを

を押さえていったら良いという視点から何か聞かせて

欲しい。

▼小川靖忠神父

集まらなかつた。「その点について教区では小教区が中心としてやる」というお

話なのか、どうなのかというご判断を頂きたい。

▼小川靖忠神父

小教区を超えて集まってくる方々を一つの班とする

というのはいかがか、という

▼小隈憲士神父(玉里)

福岡神父さん、それは班制度をはき違えていると思

う。教会の本質的な使命は「宣教する共同体となるこ

と」。この目的推進のため

に、手段としてあるのが班制度。これは第二バチカン

公会議の精神に則ったやり方

で、教区としては三十年になる。素晴らしいことを

推し進めてきたのが、残念ながらうまくいっていない

現状が今日に至っている。永山神父様が現状の分析

をされたが、小教区の活動を司牧評議会の主たるメン

バーである班長がイニシアティブをとってやるだけ成

熟しているかと言うと、現実にはそうではない。各班の力量には差があり、その力量を同一化するだけの

▼永山幸弘神父

班とかそういうものにはこだわらず集まって交流を持

てば良いのでは。でもそれは「班」とは言えない。

▼小川靖忠神父

鹿兒島教区の現状は、三十年、四十年前からの神父

方もいらつしやるし、新しい神父、修道会の神父もお

られ、班制度に対する認識の度合いはバラバラ。そ

ういったところも踏まえた上でご意見があればお聞かせ

願いたい。

▼大野正博(谷山)

谷山教会は高齢化が進み、掃除に参加できない人

も増えている。また、班の

▼福崎英雄神父(谷山)

私も班制度をきちんとしていて、高年齢化の問題があり、班を維持することが難しく

なっている。高年齢化が進む、若者が教会から離れていく、信仰の

伝達が難しい。確かに多くの困難な問題がある訳だが、あるが故に今考えなく

てはならないことだ。そういう前向きな私たちの思い

が一つになれば、すこし変化があるのではないか。

▼永山幸弘神父

極端な言い方かもしれないが、信者さんから言われたのは「今の教会はクラブのようだ」。教会で趣味

の会、それはそれで構わないが自己目的というか、自分たちの楽しみ、

「自分たちが快適に教会で過ごせばそれでいい」というよ

うな自己目的になってしまっている。これが私にとつ

ては非常に悲しい。あなた方は他者のためにあるのだ

ぞ、自分たちの楽しみのために教会に来ていてはな

ないのだぞということ。それが見え過ぎてクラブなの

ですよ、今の教会は。

▼徳永善博(紫原)

紫原も高齢化のため、月一回の班会も集まる方が非常に少ない。四班あるが、

一と二班、三と四班と合同で行っている。また、班会

参加を呼び掛けてもミサ後すぐに帰られる方が多く、

一・二班でも集まるのは四、五人。紫原教会の信徒

が「班制度」の意義を理解していないと感じる。

▼永山幸弘神父

私からの願いは「皆さんがアニメーターになって下さい」ということ。「勉強

しなければならぬ」、「あれをしなければならぬ」と言うよりも、少なくとも少し理解している人達が働

▼永山幸弘神父

なっている。エリアの改善も考え、例えば五班と十一

班を一緒にするなどして何とか維持させようとする

ものが難しいのかな」という気もしてきている。そこ

で「何でもやる会」が発案されたのだが、例えば、

趣味別に分ける、「お花を作る会」、「典札を頑

張ろう会」など、そういうところ

にきていてはいるのかなと思

う。エリアで班を分けてやることは場所の問題、年齢

の問題もあり、このまま維持して行くのはどうか

と感じている。もっと新しい形にしても良いのかなと

感じている。

▼永山幸弘神父

は非常に悲しい。あなた方は他者のためにあるのだ

ぞ、自分たちの楽しみのために教会に来ていてはな

ないのだぞということ。それが見え過ぎてクラブなの

ですよ、今の教会は。

▼徳永善博(紫原)

挑戦から見えてきたもの 今後取り組むべきこと

▼平郁代(聖心) 聖心教会で永山神父様が今年から班制度を始められた。私は過去に婦人会役員として、また班の代表として司牧評議会に参加していたが、参加しながらも違和感を感じていた。班の代表として出席していても意見を言わない人が多かった。そんな中で私もこの女性部会もあと五年活動が続けられるかと思っていた。いつか班制度にもなっていくとすると、今までと変わることにへの不安感があり、色々反発もあった。しかし永山神父様が班制度を持ってこられたのは、今だけではなく、将来の聖心教会がどうなっていくかを見据えた上での決断だったと思う。

▼永山幸弘神父 永山神父が話された今日のテーマ「班制度」については、「班は小さな共同体であり、まさにそこに教会がある」ことを学んだ。これまでの班制度というものはどちらかと言うと、掃除当番・典礼当番・連絡組織としての程度であつたように思う。しかし、班会へ参加できる人・出来ない人を含めて、教会を離れた人を含めて、家族としての小さな共同体なのだということ

三十年前に立ち返って 班制度設置の教区の思い

▼竹山昭神父(ザビエル)

私が理解している限り、三十年前に教区が班制度に踏み切った理由の一つは、一人も落ちこぼれる信者さんを出したくない、行方不明になったり、知らずに教会を出て行ったり、当時は孤独死というものはあまり問題にはなっていないまでも、三十年前にはなっていない。私たちが、共同体の目からこぼれていく人を一人も出したくないという切なる願いが根本だったと思う。それをどうしたら実現できるかと当時考えられた一つのやり方が、班組織、班制度とも呼ぶが、小教区をもう少し小さく、地域毎に分けて、つまりターゲットにできる範囲を絞らなければ、とてもじゃないが誰も落ちこぼれが出ないようにということ具体的には実現できない。だから細胞を作ろうというのの一つの狙いだったと理解していた。

を、そして宣教の拠点であることを改めて勉強して、これを単に班長だけのものにするのではなく、班員を含めた全体のものとして共通理解をし、進めていくことが必要だと思ふ。

▼大茂卓郎(瀬留) 他教会と同じようにに壮年会、婦人会が瀬留にはある。しかしそれを乗り越えて地域の制度の中で、班制度をやっていく場合には、信徒会長を中心にならないと、そこを伺いたい。

▼永山幸弘神父 信徒総代ですが、これは何

の、例えは財政に関するものと同じように、司牧や宣教の基盤になる点でも、教区どこへ行っても同じという基本的な組織を作ろう。そうできればそこが地域での宣教のセンターにもなるだろう。難しくてもなる可能性は出てくるだろう。そういう幾つかの狙いがあった、この班組織は始まったのであって、「班集會」は私たちのこの仕組みを動かしていくための一つの小さな原動力となるためには、皆があまり顔を合わせないと、やがてそれは力が弱っていく、だからある間隔で定期的に集まれる人が集まる。だから「班集會」と「班組織」は同じではない。班組織の方がもっと広い。ただそれを内的に活発に動かしていくためには、どうしても集まる必要があった。従って集まる人々が、そこで話し合われたことを集まらなかった人々に伝達しなければ意味がない。そういう幾つかの狙いがある。スタートしたのだったと理解している。



同時にもう一つは、小隈神父様がおっしゃったように、私たちの信仰とは生活のことだから、私たちの司牧も宣教もベースは人々の生活にある。その場と同じように教区の司牧と宣教の一番底になる組織のベースを置きたい。それが班組織を作る時のもう一つの狙いだったと思っている。すると、そこから交わりがもう少しやり易くなるであろう。難しいけれど広いやりも(小教区全体と一緒に交わろうとするよりも)もう少し細かな交わりの可能性がもっと高くなる。同時にその同じ基盤から、小教区の運営に信者さんたちが参加する可能性が出てくる。そこから代表を出して、その人たちが小教区を主任司祭と一緒に運営する。第二バチカン公会議は、「教会は信徒の教会でもある」と宣言したので、それを具体化できるとしたら、このために司牧評議会がある。そして司牧評議会があるだけではとまらなければならないから、信徒総代一人、副総代二人、書記二人の計五人、これが共通理解を持つとやっていく。だから信徒総代といつても一人ではやらない方がいい。仲間と一緒にやるべき。そして瀬留にも壮年会と婦人会をどう生かすか、中に入れこんで一緒にやるのか、今が正念場だと思う。

会と催し (2月)

- 1日(日) 年間第四主日
- 2日(月) 主の奉獻
- 4日(水) ポップイ神父命日(一九八八年)
- 5日(木) 日本二十六聖人殉教者
- 8日(日) 年間第五主日
- 11日(水) 世界患者の日
- 13日(金) ハンマ神父命日(ヨルダン)
- 14日(土) 出口市太郎神父命日(一九五八年)
- 15日(日) 年間第六主日
- 17日(火) 教区巡礼委員会・教区本部・19時
- 18日(水) 灰の水曜日(大斎・小斎)

▼四旬節愛の献金(四旬節中) 教皇は毎年、四旬節に向けてメッセージを発表し、キリストを信じるすべての人が四旬節の精神をよく理解して、回心と愛のわざに励むよう呼びかけています。この呼びかけにこたえて日本のカトリック教会は、虐待され、差別され、見捨てられ、いのちの危機にさらされている人たちの共感を大切にするよう一人ひとりに訴えるところに、四旬節中の「愛の献金を」を奨励しています。

この「愛の献金」は、カリタスジャパンを通して、海外諸国と日本各地に送られ、難民や孤児、そして、貧困、失業、飢餓などに苦しむ多くの人々のいのちを守るために、また彼らの自立を助けるために使われます。

- 22日(日) 四旬節第一主日
- ▼オリープの会・14時・教区本部
- 27日(金) 東條一浩神父命日(二〇〇七年)

祈りの意向
【ノベナ】「病者の日」に際し、病の床にある人のために(11日、19日)

【祈祷の使徒会】 世界共通 ・ 囚人たち
宣 教 ・ 離婚した人々
日本の教会 ・ ユスト高山右近の列福に向けて

鳴池教会共同体に新しい風



十二月二十四日のクリスマスミサ。一人の幼稚園児の洗礼がありました。その子の名は、アレキサンダー・インマヌエル・キトレレイ(洗礼名・アンジェラ・メリチ)。両親は、南の島ファイジーからの留学生。そして今回の代母は、看護師国家試験のために勉強中のインドネシアからのモニカ。いずれも毎週のミサを大切にしている方々。今鳴池教会に新しい風を送ってくれています。ちなみに父ジョキムは、毎日のミサにあずかるため、教会近くに住まいを探しています。

司教執務室便り

四旬節を前にして



手元には、各教区の教区報や小教区、修道会からの通信が毎月送られてきま...

私たちの言葉で言えば、「捧げもの」ということにな...

この二つの記事は、私に大きな呼びかけとなりました。一つは、自分の信仰を...

イエスとの思い出を大切に！ 郡山司教が枕崎でクリスマスミサ



加世田の巡回・枕崎教会で十二月二十五日、郡山司教によるクリスマスミサ...

+KABAYAN SEKSYON+ Talikdan ang Takot, Tahakin ang Tiwala

Ano ang kabaligtaran ng "pananampalataya" sa Banal na Kasulatan? Pagdududa, kawalan ng pananalig, pangigila, o kawalan ng tiwala? Masasabi natin na ang kabaligtaran ng "pananampalataya" ay "takot." Ang matakot ay nangangahulugan ng pagdududa sa Diyos at sa mapagmahal niyang presensya sa ating buhay.

Ang paalalang "Huwag matakot" ay malimit na matatagpuan sa Bibliya. Sa Anunsasyon, sinabi ni Gabriel: "Huwag kang matakot, Maria, dahil may magandang niloob ang Diyos para sa iyo." (Lk 1:30). "Jose, anak ni David, huwag kang matakot na tanggapin si Maria bilang iyong asawa. Gawa ng Espiritu Santo kaya siya naglihi" (Mt 1:20).

Nang isilang si Hesus, narinig ng mga hamak na mga pastol na ipinahayag ng mga anghel: "Huwag kayong matakot, ipinahayag ko ng sa inyo ang magandang balita na magdudulot ng malaking kagalakan sa lahat ng bansa." (Lk 2:10). Sa gitna ng masungit na panahon sa dagat, winika ni Hesus: "Lakasan ang loob! Ako ito, huwag kayong matakot" (Mk 6:50).

Lahat ng mga taong ito sa Bibliya ay kinailangan kumilos mula sa takot tungo sa pananampalataya, habang isinusuko ang sarili sa mapagmahal na plano ng Diyos para sa kanila. Ang ating mga padududa at takot ay totoo; kailangan natin silang harapin. Tinatanggap natin mula kay Hesus ang katulad na paanyaya tungo sa pananampalataya. Ang moto ng ating pagkadisipulo ay ang apat na letrang "T": Talikdan ang Takot, Tahakin ang Tiwala.

Katesismo sa "Taon ng Pananampalataya (Fr. Dino Orolfo)

「思いを他へやるのです。愛の心・慈しみの心を人に捧げるのです。つまり、心の布施にほかなりません」(倭成)。

ある修行僧は、自分を迫害する人にも、「私はあなたを敬います。皆、仏になる人だからです」と言っています。

「今こそ、心からわたしに立ち返れ。断食し、泣き悲しんで衣を裂くのでなく、お前たちの心を引き裂け」(ヨエル1:12)。

鈴木神父のやさしい言葉

サタン、引き下がれ...

イエス様が死と復活を予告したとき、ペトロはイエス様を「わきへお連れして、いさめ始め」ました。するとイエス様は振り返って、ペトロに向かって「サタン、引き下がれ。」と言う場面があります。このイエス様の言葉をマルコ福音書に基づいて考えてみましょう(マルコ8:32-33)。

正しく訳せば「私の後ろに引き下がれ、サタンよ、」となり。この文では「サタンよ」の後にカンマがあり、その理由を表す文が続いています。このことに留意して訳せば「神ではなく人間を心にかけるサタンよ、私の後ろに引き下がれ、」となります。つまり、神ではなく人間を心にかけるもの、サタン、ペト

ロという図式で描かれています。だから、イエス様はペトロを叱ったのです(8:33)。ここでの「サタン」とは映画や小説に登場する悪魔(デーモン)のことではなく、ヘブライ語の意味をもつ言葉から派生したものです。というよりは、意味として「進むべき道を躓かせるもの」といったところでしょう。

「迷う」、「傾く」という意味をもつ言葉から派生した「サタン」とは映画や小説に登場する悪魔(デーモン)のことではなく、ヘブライ語の意味をもつ言葉から派生したものです。というよりは、意味として「進むべき道を躓かせるもの」といったところでしょう。

「サタンよ」の後にカンマがあり、その理由を表す文が続いています。このことに留意して訳せば「神ではなく人間を心にかけるサタンよ、私の後ろに引き下がれ、」となります。つまり、神ではなく人間を心にかけるもの、サタン、ペト



と信じさせなくする様々な出来事が私たちに与えている。ペトロでさえも復活したイエス様に出会うまでは信じられなかった、ということをおぼろげに思い出してください。私たちにもいろいろなかたちで復活したイエス様に出会う可能性が開かれています。この可能性と私たちに与えられたサタンを四旬節にあたりて黙想してみませんか。

短歌 鴨池教会 田平新太郎 しあわせを祈らむひと日尊とばむイエスマリアの心しみ得て 妻を得て知りぬ祈りの心はつ花野となりぬ祈りの心は大笠利教会 稲 牛憲 省みて事なく過ぎし幸せはイエス様より頂きしもの 国分教会 市来房枝 塩と米振りて「伐らせて下さい」と声掛け鋸を当てる人あり 出水教会 遠竹睦郎 生命と人間の尊厳重んじる平和な新春吾れ迎へたり 鹿児島純心 川上 和 震災に消えし漁港に今点灯ツリーの光のち温む

サを司教が司式する」と連絡が入ったのは、当日の四日前。信徒たちは大いに喜び、クリスマスには聖堂内のすべての長椅子が埋まるほどの盛況ぶりとなった。ミサはキヤンドル・サービスでスタート。小さな堂内の暗闇が、たくさんのろうそくの灯で埋まった。説教では郡山司教が「出エジプト」のエピソードや「イザヤ書の書かれた時代(特にバビロン捕囚期)」について触れ、この日の福音(ヨハネ1:18)を「思い出」をキーワードに

「思い出」をキーワードにサを司教が司式する」と連絡が入ったのは、当日の四日前。信徒たちは大いに喜び、クリスマスには聖堂内のすべての長椅子が埋まるほどの盛況ぶりとなった。ミサはキヤンドル・サービスでスタート。小さな堂内の暗闇が、たくさんのろうそくの灯で埋まった。説教では郡山司教が「出エジプト」のエピソードや「イザヤ書の書かれた時代(特にバビロン捕囚期)」について触れ、この日の福音(ヨハネ1:18)を「思い出」をキーワードに

追田久光信徒総代は、「司教司式のクリスマス・ミサは光栄。何より、久しぶりに聖堂が大勢の人たちで賑わってうれい。共同体にとって思い出深いクリスマスになった」と話した。(報告・諏訪勝郎神学生)